



名古屋大学教授

## 田中英紀

Tanaka Hideki

1970年岐阜県生。1998年名古屋大学大学院博士後期課程修了。中部大学准教授等を経て、2014年名古屋大学施設・環境計画推進室特任教授。2019年より現職。ささしまライブ24地区エリアエネルギーマネジメント協議会座長。

## 実体験を原点に、建築群のライフサイクルエネルギーマネジメント手法を研究

## 主な研究テーマを教えてください。

田中 専門分野は建築環境設備で、主テーマは都市・建築の省エネ、再生可能エネルギー(再エネ)の活用です。中でも今は、建物のライフサイクルエネルギーマネジメントに注力しています。既築中小ビルの多くは運転管理者が不在で、エネルギー診断、運用改善アドバイス、運転の最適化・遠隔化・自動化等のサービスが必要です。そのため、近年はAIを活用した遠隔エネルギーマネジメント手法の研究等を進めています。

## それらの研究の原点は？

田中 約20年間、名大の新築・既築建物の省エネ計画・実践支援を担当してきました。その中で既築建物の省エネの困難さを感じたことが大きいです。様々な体験が、60棟余の主要な校舎のエネルギー消費パターンをモデル化して次の建物に活かす手法や、省エネ行動を促す情報の見せ方の開発等に繋がっています。

## 地域熱供給に期待することは？

田中 地域熱供給は、未利用エネルギー活用のほか、建物用途や規模の組合せによるエネルギー需給の全体最適化、時間や季節間のエネルギー

需給のミスマッチ解消にも対応できます。また、今後、電源構成に占める再エネの比率を高めていくために、VPPへの貢献も期待しています。

## 最後に今後の展望をお願いします。

田中 脱炭素という目標に、感染症対策等も加わって、社会の変革が進んでいきます。その際にエネルギー・空調システムにどのような影響を及ぼすか、予見して動いていかないと間に合いません。新しい発想で研究・提案していくことが必要ですし、それを実践していきたいと思います。

(取材：広報委員 石本 真)